

史 跡 斎 宮 跡

平成18年度現状変更緊急発掘調査報告

平成20(2008)年3月

明 和 町

序

昨年度、三重県教育委員会において「史跡整備の在り方検討会」を設置していただき、史跡東部の「遺構の学術的復元・整備ゾーン」を中心に史跡全体を活用し発展させていくために、今後の整備をどのように進めていくかを1年かけて検討していただきました。その結果、中院想定地を整備対象とし、式年遷宮の行われる平成25年を目処に完成を目指す方針が出されました。整備の内容は、整備場所の解明が進んでいないことから具体的なことは示されませんが、整備手法を決めるため県において中院想定地を集中的に発掘調査が実施されています。この整備では、地元地権者の方々は10/10の建物復元（実物大）整備を願っており、町も、どのように活用することが町の活性化につながるか検討し、魅力あるものにしていきたいと考えています。そのため町は、整備に向けて地権者の協力を得ながら、整備地の公有化を早急に図ることが必要と考えています。

このように齋宮跡の保護・保存・活用は進められようとしていますが137.1haに及ぶ広大な史跡内には約600世帯に及ぶ住民が生活していることから、生活に結びつく現状変更等許可申請が毎年数多く提出されます。

この報告書は、平成17年度～18年度に提出された現状変更等許可申請の中で平成18年度に事前発掘調査が実施された9件の結果についてまとめたものです。

現状変更に伴う調査は、第151-4次調査のように比較的まとまったものや、第151-12次調査のような非常に小さなものなど規模は様々です。また、調査場所は広い史跡内を点在していますが、これらの成果の積み重ねが齋宮跡を解き明かすものと思っています。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者のみなさま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた齋宮歴史博物館調査研究課の方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成20（2008）年3月

三重県多気郡明和町

町長 中井幸充

例 言

- 1 本書は、平成18（2006）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査のうち第151-8次調査は公共事業として事業者（明和町）が費用負担したが、それ以外については国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡課が現地調査を担当した。
- 4 調査区名の表示方法（例：6 A L13）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』（斎宮歴史博物館 2003）による。
- 5 遺構の平面図は、過年度の調査成果との整合をはかるため、測地成果2000以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表示している。
- 6 遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』（2001）を基準とした。
- 7 遺構名冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。
SA；柱列・塀 SB；掘立柱建物 SD；溝 SE；井戸 SF；道路
SK；土坑 SH；竪穴住居 SZ；落ち込み等 SX；墓・不明遺構
- 8 図面・写真等の調査資料類は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 9 本書の執筆・編集は、泉雄二・大川勝宏・松田珠美（斎宮歴史博物館）、中野敦夫（明和町斎宮跡課）が行った。

目 次

I 前 言	1
II 調 査 報 告	
1 第151-3次調査	2
2 第151-4次調査	2
3 第151-5次調査	4
4 第151-6次調査	5
5 第151-8次調査	6
6 第151-9次調査	7
7 第151-10次調査	8
8 第151-11次調査	8
9 第151-12次調査	9
付編 史跡現状変更等許可申請	11

表・挿図目次

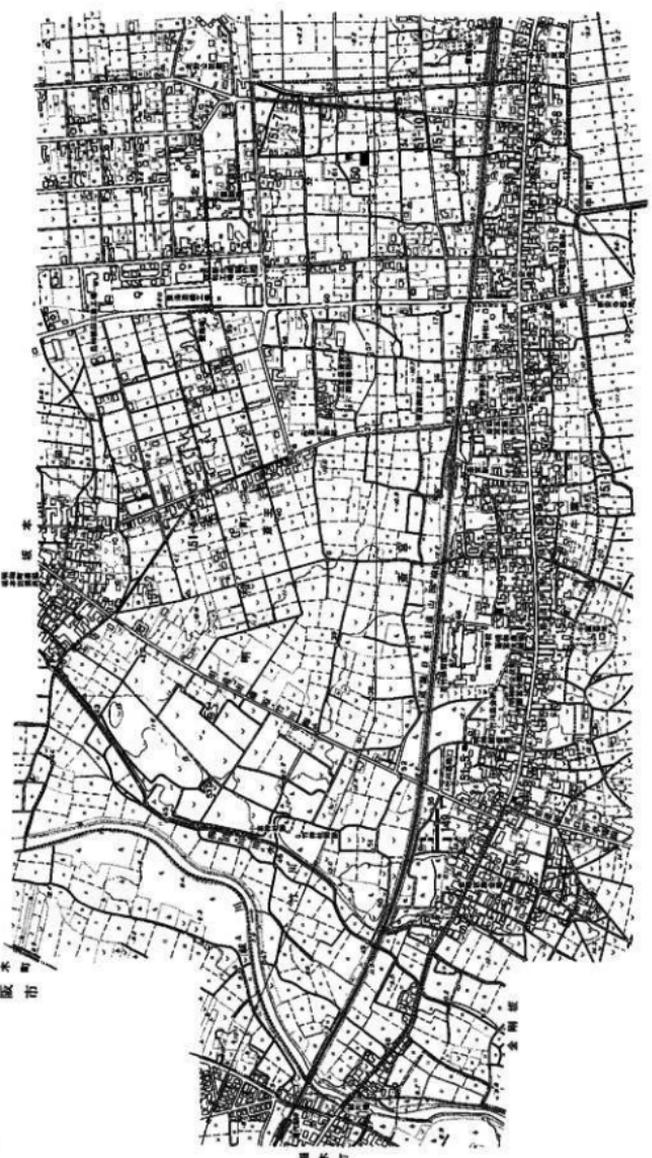
[表] 1 史跡現状変更等許可申請の推移	1
2 第151-3～6・8～12次調査検出遺構一覧	10
3 平成18年度史跡現状変更等許可申請一覧表	12
[図] 1 発掘調査地区位置図 (1:10,000)	
2 第151-3次調査 調査区位置図 (1:2,000)	2
3 第151-3次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)	2
4 第151-4次調査 調査区位置図 (1:2,000)	2
5 第151-4次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)	3
6 第151-5次調査 調査区位置図 (1:2,000)・遺構平面図 (1:200)	4
7 第151-6次調査 調査区位置図 (1:2,000)	
8 第151-8次調査 調査区位置図 (1:4,000)	6
9 第151-8次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)	6
10 第151-9次調査 調査区位置図 (1:2,000)	
・調査坑配置図 (1:400)・断面図 (1:50)	7
11 第151-10次調査 調査区位置図 (1:2,000)	
・遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)	8
12 第151-11次調査 調査区位置図 (1:2,000)	8
13 第151-11次調査 遺構平面図 (1:200)・遺構断面図 (1:100)	9
14 第151-12次調査 調査区位置図 (1:2,000)	
・遺構平面図 (1:200)・遺構断面図 (1:100)	9

写真図版

1 第151-3・4次調査	上:3次調査全景(西から)	下:4次調査北区全景(南から)
2 第151-4次調査	上:北区南半部(西から)	下:SH9632(北から)
3 第151-4次調査	上:南区全景(西から)	下:SD2505(西から)
4 第151-4・6次調査	上:4次排水管調査区(北から)	下:6次調査全景(北から)
5 第151-6次調査	上:SK9637(北から)	下:調査区東部(北から)
6 第151-9・10次調査	上:9次Cグリッド	下:10次全景(西から)
7 第151-11・12次調査	上:10次全景(北から)	下:11次全景(北東から)



松阪市
松阪市



松阪市
松阪市

第1圖 免振調査地区位置圖 (1:10,000)

I 前 言

史跡斎宮跡では、平成18年度には31件の現状変更等許可申請が出された。史跡指定後、近年では年間約40～50件程度で推移してきたことを考えると昨年度から今年度にかけては減少傾向にあるといえる。

その内訳をみると史跡内住民による個人住宅や農業用倉庫の増改築や撤去、宅地の造成や植栽の撤去、上下水道の整備、道路の修繕、史跡公園の整備などがある。今年度は、昨年度以前に許可申請がなされていたものや、工事立会いに際して遺構面が確認されたため急遽発掘調査対応に切換えたものも含めて12件の発掘調査を行った。特に、昨年度にひきつづき、明和町の下水道整備事業に関わる発掘調査が本格的になった。今年度では第151-1・2・7次調査として、現状変更に伴う調査面積全体1,021㎡の81.8%にあたる834.8㎡がこれにあたり、調査費用は町単費によっている。この調査成果については、別途の調査報告書の刊行を予定している。本書では、この下水道に関わる調査以外の9件の調査成果について報告するものである。

第151-4・6次調査は、個人住宅の新築・改築に伴うもので建物の基礎にあたる部分を中心に調査した。また、第151-5次調査は、個人住宅の撤去に伴う改築にあたり、旧建物の基礎を除去する際に遺構面が確認されたため、検出状況を記録するとともに、浄化槽部分の調査をおこなったものである。

第151-9次調査では、住宅密集地内で竹藪となっている場所を抜開し、一部土壌の入れ替えを行う現状変更に伴うもので、遺構面までの深さを確認し、そのデータに基づき地下遺構に影響しないよう施工を求めた。第151-11次調査は、史跡斎宮跡の土地利用区分で第三種保存地区での宅地造成によるもので、申請地の大半について遺構の確認を行った。

その他小規模なものでは、第151-8次調査は町営の上水道改良事業での立会いの際に確認された遺構面の調査。第151-3次調査は個人住宅改築に伴う浄化槽部分の調査。第151-12次調査は竹神社に設置するのほりポールの基礎部分で遺構面に達した箇所調査を行っている。

以上のように平成18年度の史跡現状変更に伴う調査は、下水道事業に伴うものを除いて小規模なものも多く、斎宮跡の実態解明にとって顕著な成果をあげるものではなかったが、住宅密集地における遺構の分布や遺構面の標高など、史跡の保護にとっては貴重なデータを蓄積できたといえる。(大川勝宏)

年度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積 (㎡)	うち補助金調査件数	同調査面積 (㎡)
S 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
H元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	43	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	12	1,021	8	323
計	1,217	321	60,195	185	23,353

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

Ⅱ 調査報告

1 第151-3次調査 (6AL13)

調査場所 三重県多気郡明和町齋宮字牛葉99-2

原因 住宅建替

調査期間 平成18年8月18日

調査面積 4㎡

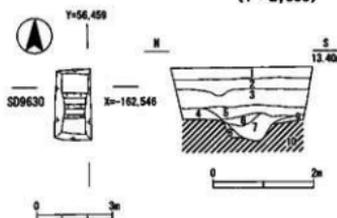
調査概要

史跡南部の旧参宮街道沿いでの個人住宅の改築に伴う調査で、工事による掘削深度の深い浄化槽部分について事前の発掘調査を行った。

遺構を確認できる地層面までは深く、既存建物の撤去を行ったあと、現況のG.L.から約1.0mでこの面に達した。標高で12.1mほどになる。遺構検出面までの土層にはレンガ等が混在し、近世・近代以降の土層が堆積する。遺構は調査区の中央を東西に横切る溝SD9630を確認した。断面がゆるい逆台形状になり、検出上端で幅約1.3m、深さ約0.5mになる。埋土断面の観察から、この溝は複数回改修されたことが分かる。土師器小片が一点出土したのみで、時期については不明だが、溝の方向から近世参宮街道と何らかの関連がうかがわれる。(大川勝宏)



第2図 第151-3次調査 調査区位置図 (1:2,000)



1 旧赤土	6 黒色粘質土 10YR 3/1
2 盛土	7 黒褐色粘質土 10YR 3/2
3 暗褐色粘質壤土 5YR 3/1	8 褐色粘土 10YR 4/1
4 褐色粘質土 10YR 4/1	9 褐色粘質土 10YR 4/1
5 黒褐色粘質土 10YR 3/2	10 黄褐色粘土 10YR 8/4 (地山)

第3図 第151-3次調査 遺構平面図 (1:200)
・断面図 (1:100)

2 第151-4次調査 (6AN06)

調査場所 三重県多気郡明和町齋宮字篠林3146

原因 住宅建築

調査期間 平成19年9月11日～12月25日

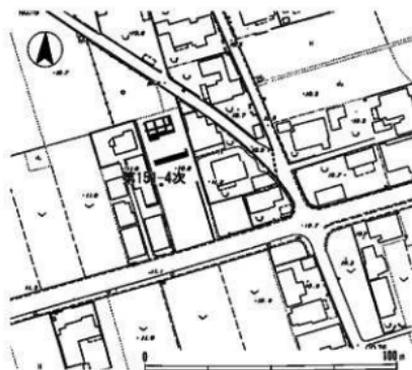
調査面積 92㎡

調査概要

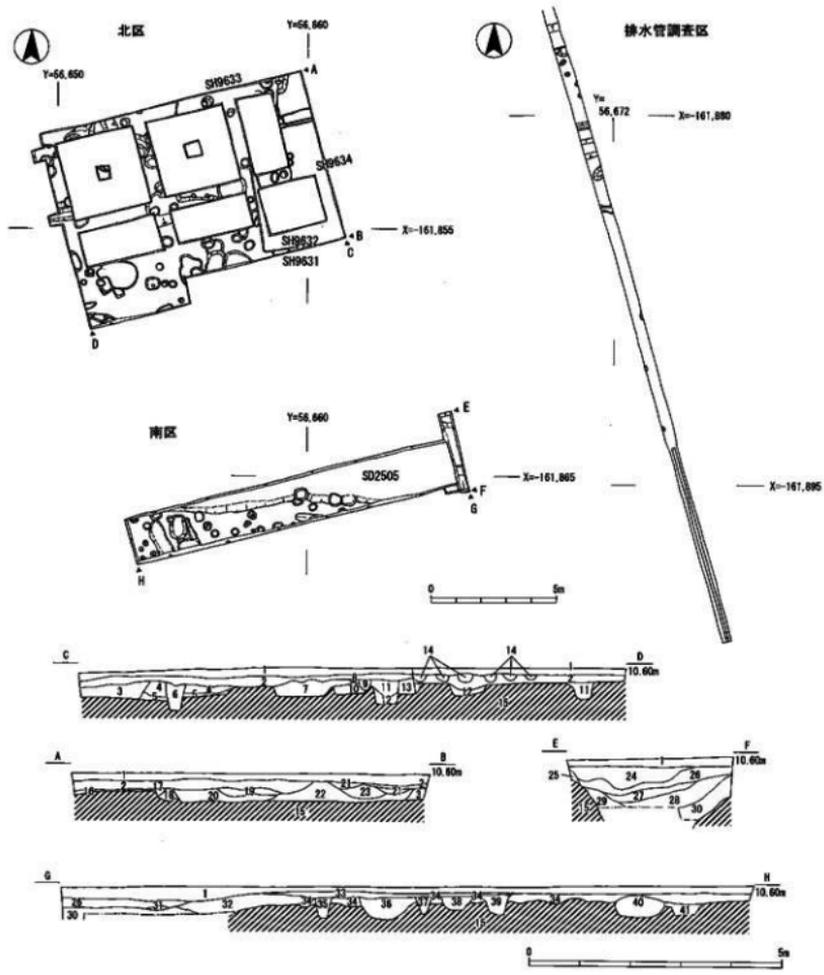
本調査は、史跡北部の町道「歴史の道」沿いの、史跡の第三種保存地区において、個人住宅の新築に先立って実施した調査である。

当該現状変更では、住宅基礎部分をバイル工法により構築するため、その部分で布張り状に調査区を設定するとともに(北区)、申請地内に史跡北部を巡る中世の大溝が通過することが予想されたため、その箇所にも幅2mのトレンチ状の調査区を設定した(南区)。また、住宅建築後、排水管の埋設を行ったため、その箇所も調査対象とした(排水管調査区)。

調査の結果、北区では、複雑な形状かつ狭隘な調査区という条件ではあったものの、東半に集中して竪穴住居4棟が重複するのを確認した。全体の平面形はいずれも方形になるとみられるが、調査区内では柱穴は確認できなかった。このうち、



第4図 第151-4次調査 調査区位置図 (1:2,000)



- | | | |
|--------------------------------|------------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色粘質土 10YR 3/2 (黄土) | 15 明黄褐色粘土 10YR 6/8 (地山) | 28 灰黄褐色土 10YR 5/2 |
| 2 暗褐色粘土 10YR 3/4 | 16 黄褐色粘土 2.5Y 5/6 | 29 にぶい黄褐色土 10YR 6/4 |
| 3 地山土層を穿みやや粘性的のある黒褐色土 10YR 2/3 | 17 15と18の混層 | 30 黒褐色土 10YR 3/2 |
| 4 地山土層を穿みやや粘性的のある褐色土 10YR 4/4 | 18 やや粘性的のある黒褐色土 10YR 3/2 | 31 粘土 7.5YR 4/3 |
| 5 明黄褐色粘土 2.5Y 6/8 | 19 やや粘性的のあるにぶい黄褐色土 10YR 4/3 | 32 黒褐色土 7.5YR 3/2 |
| 6 やや粘性的のある黄褐色土 10YR 4/3 | 20 地山土層混や粘性的のある暗褐色土 10YR 3/3 | 33 暗灰色土 10YR 5/1 |
| 7 黒褐色シルト 10YR 3/1 | 21 やや粘性的のある黄褐色土 10YR 5/6 | 34 黒褐色土 10YR 3/1 |
| 8 黄褐色シルト 10YR 5/6 | 22 やや粘性的のある黒褐色土 7.5YR 3/2 | 35 黒褐色土 5YR 3/1 |
| 9 やや粘性的のある黒色土 10YR 2/1 | 23 褐色シルト 10YR 4/4 | 36 地山土層混層褐色土 10YR 3/1 |
| 10 やや粘性的のある黒褐色土 10YR 2/2 | 24 小石混明黄褐色粘土 2.5Y 6/6 (壁穴跡床) | 37 黒褐色土 10YR 3/2 |
| 11 地山土層混層黒褐色粘質土 10YR 3/1 | 25 暗灰色土 10YR 4/1 | 38 焼土混層黒褐色土 10YR 2/2 |
| 12 暗黄褐色粘土 10YR 6/8 | 26 灰黄褐色土 10YR 4/2 | 39 黒褐色土 10YR 2/2 |
| 13 黒褐色シルト 10YR 3/1 | 27 黒褐色土 10YR 3/1 | 40 黄褐色粘土 (腐植床) |
| 14 礫層にぶい黄色土 2.5Y 6/4 | 27 にぶい黄褐色土 10YR 5/3 | 41 黒色土 10YR 2/1 |

第5図 第151-4次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

S H9631・9632は調査区の南壁付近で、掘形がわずかにみえる程度の確認だが、S H9633は、東西約4mの規模で、掘形の東壁部分で竈の痕跡と考えられる焼土面が検出された。遺構埋土からは土師器甕の破片が出土しているが、詳細な時期判断はしがたい。重複関係上、最も新しいとみられるS H9634は南北で約5.2mあり、砂利や粘土を固めて床面を形成している。出土遺物には土師器杯・甕・高杯片があり、奈良時代のものと思われるが、これも詳細な時期決定はできなかった。

北区では、この他にも西半に小規模なピットや土坑状の落ち込みがあるが、調査前に現地にあった植栽の根に攪乱されており、不明瞭な形状のものが多い。また、調査区の形状による制約から、柱穴とみられるものについても、建物としてのまとまりは明らかにはし得なかった。

南区では、調査区を東西に斜めに横切る形で、予想通り中世の大溝（鎌倉大溝）S D2505を確認できた。調査の安全と、遺構の保護から、遺構掘削を遺構検出面から深さ約0.2mまでとし、東端部のみ遺構の断面形をみるために部分的に深さ1m近くまで調査した。出土遺物は埋土の上層部分で奈良時代のものと思われる土師器・須恵器片がわずかに出土したのみである。

南区でS D2505の他には、風倒木痕と小規模なピットが多数確認されたが、性格は不明である。

排水管工事に伴う調査では、申請地の東端に沿って長さ約27mの調査を行った。遺構面の標高は北端で10.2m、南端で10.0mほどである。小規模なピットや攪乱の落ち込みなどが見つかったが、明確な遺構は確認できなかった。なお、同一の申請地内では平成10年度に第125-3次調査を実施しているが、その際に検出された奈良時代の溝S D8117の連続は確認できなかった。

出土遺物は、整理箱で10箱分あるが、大部分は表土・包含層からの出土である。奈良時代のI-3期前後の資料が目立つ。
(松田珠美・大川勝宏)

3 第151-5次調査 (6A112)

調査場所 三重県多気郡明和町竹川字東裏344-2

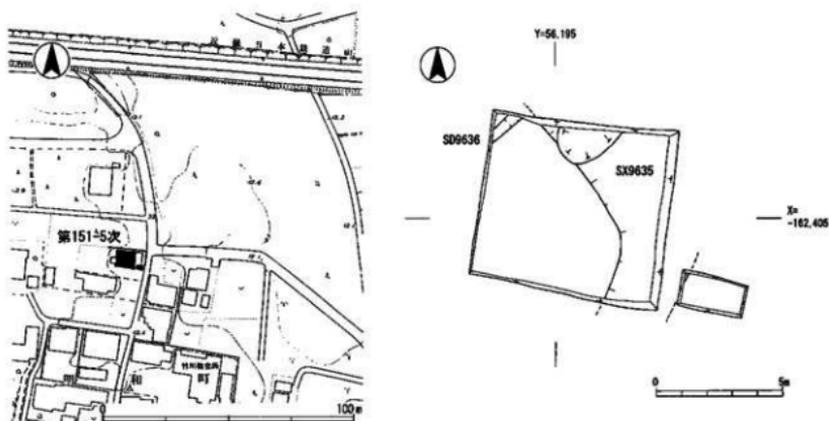
原因 住宅建替

調査期間 平成18年9月27日～12月14日

調査面積 56.7㎡

調査概要

史跡南部の旧参宮街道から少し北に入った住宅地において実施した、個人住宅の改築に伴う事前の調査



第6図 第151-5次調査 調査区位置図(1:2,000)・遺構平面図(1:200)

である。住宅基礎部分については、当初工事立会いによる対応だったが、既存建物の撤去とそれに伴う基礎部分の土壌入れ替えにより、遺構面が露出したため、その精査を行い検出状況を記録した。工事の掘削は遺構面までにとどまるため、遺構埋土の掘削調査は行っていない。なお、遺構面の標高は約12.6mである。また、住宅建築後、掘削深度の深い浄化槽部分も調査した。

確認した遺構に方形周溝1基、溝1条がある。方形周溝S X9635は、北に向かって45°ほど傾き、北東辺と南東辺の一部と、その間の角の部分を確認した。浄化槽部分の調査でも周溝の外側の肩部分とみられる遺構が確認されており、同一のものとする幅2.7mほどに復原できる。周溝の埋土は黒色で出土遺物はなく、詳細な時期決定はできない。S D9636は、調査区の北西端で確認した幅約0.4mの溝で、黒色土で埋まっていた。ここからも出土遺物はなく、時期は不明である。

(泉雄二・大川勝宏)

4 第151-6次調査 (6AH12・13)

調査場所 三重県多気郡明和町竹川字南裏235,233-1,234-1,236-1

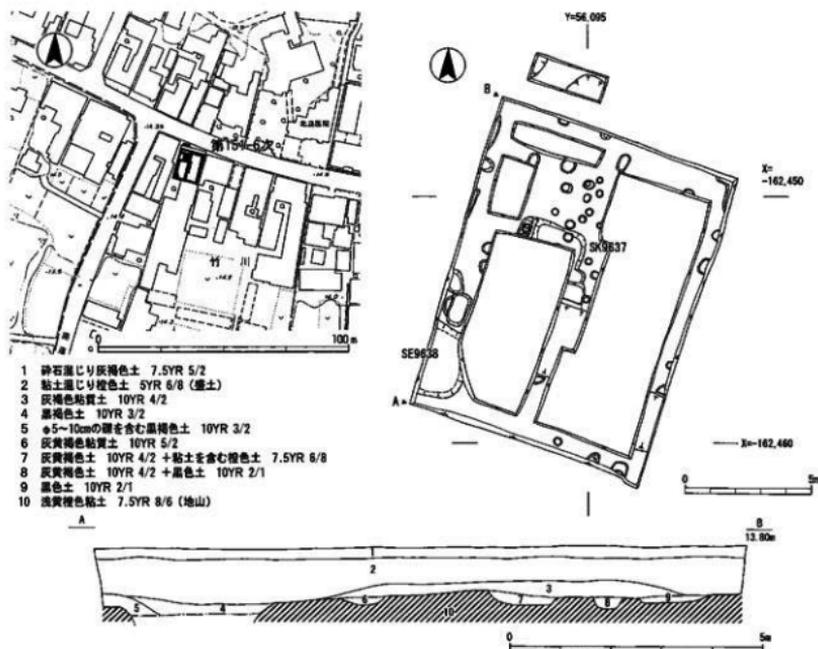
原因 住宅建築

調査期間 平成18年10月10日～10月23日

調査面積 65㎡

調査概要

史跡南部の旧参宮街道に面した住宅地内での、個人住宅の新築に伴う事前調査である。調査は住宅基礎がパイル工法によるものであるため、布掘り状に調査区を設定した。なお、調査の効率と安全のため、パ



第7図 第151-6次調査 調査区位置図 (1:2,000)・遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

イルが密集する箇所は広げて調査区を設定した。また、住宅建築後には浄化槽部分の調査も行った。遺構検出面は浅黄褐色の粘土層で、地表面から約1mの深さで、標高で12.4mほどである。

遺構は、調査区の中央部でSK9637、南西隅近くでSE9638を確認した。SK9637は、南側を近世以降の攪乱土壌に壊されているが、南北で2m以上、東西で2.7m、深さ0.2mの規模で、方形の土坑である。室町時代の土師器皿・鍋・羽釜・蓋が出土している。

SE9638は、平面形が隅丸形状で、検出面から0.2mの深さまでしか掘削調査していないが、遺構の肩部の形状などから井戸と判断した。出土遺物はないが、比較的固結度の高い黒褐色土が埋まっており、平安時代まで遡る可能性もある。この他にもSK9637周辺には掘立柱建物の柱穴となる可能性のあるピットが多数みられるが、建物としてのまとまりは不明で、重複関係上、SK9637より新しいと判断している。中世後期以降の街道に関連する遺構である可能性がある。

出土遺物は整理箱で3/4箱程度と少なく、中世以降のものが中心で、奈良・平安時代まで遡るものはみられない。
(泉雄二・大川勝宏)

5 第151-8 (6AT13・14/V13)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字中西地内

原因 上水道管改修工事

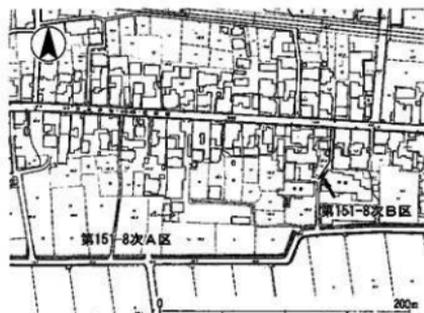
調査期間 平成18年11月8日・12月24日

調査面積 11.5㎡

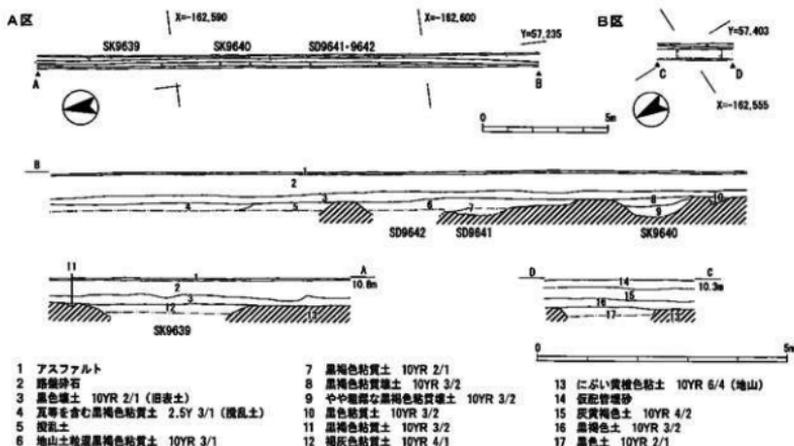
調査概要

本調査は、明和町が史跡南部で実施する既設の上水道の改修工事にかかる工事立会いで、遺構・遺物を確認した箇所について発掘調査に切り替えて対応したものである。

平成18年度の施工対象である、幅約0.6m、延長約860mのうち、施工のための掘削深度約0.7mで遺構面に至ったのは2箇所、A区で延長約20m



第8図 第151-8次調査 調査区位置図 (1:4,000)



第9図 第151-8次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

分、B区で延長約3m分が調査対象となった。なお、今回の調査では、遺構の保護のため、検出した遺構の位置等の記録にとどめ、遺構の形状や重複関係の確認のための部分的なものを除き、施工深度以上の遺構の掘削調査は行っていない。

西側のA区では調査対象のうち延長16mにわたって遺構面が確認された。標高にしておよそ10.1~10.2mである。しかし、調査区の中央に既存の水道管が埋設されており、管の両側の幅約10cmずつの範囲での遺構の確認のため、形状など十分な把握ができなかったが、中でも土坑2基、溝2条を検出した。東側のB区では、標高約10.0mに遺構面があり、土坑1基を確認している。いずれも狭限で限定された調査範囲であり、あるいは別種の遺構の可能性もある。また、出土遺物もなかったため、これらの遺構の時期についても不明である。しかし、調査事例の乏しい史跡南東部で、遺構面までの深度が確認された事は、今後の史跡保護にとって貴重なデータを得たといえるだろう。

(大川勝宏)

6 第151-9次調査 (6A12)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字牛葉3399-3

原因 植栽除去

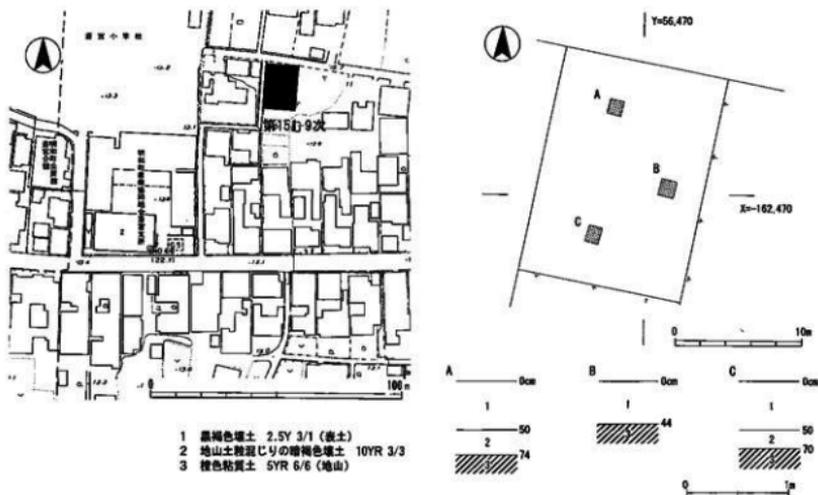
調査期間 平成18年11月27日

調査面積 4.2㎡

調査概要

本調査は、史跡南部の参宮街道沿いの斎宮小学校に近接した住宅密集地の中で、竹林を抜開し、土壌を搬入して畑とする内容の現状変更にあたり、遺構検出面までの深度や遺構・遺物の分布状況を確し、施工にあたって遺構を損なわないよう、事前に情報を得るために実施した。

調査地は、これまでほとんど手入れされてこなかった竹林であったため、竹根等が緊密に繁茂し、表土の掘削も困難を極めたが、A~Cの3箇所の調査坑を設定し、遺構検出面等の確認に努めた。このうち、調査地の西側に位置するA・C区では、現況G.L.から0.7mほどで遺構検出面である橙色粘質土層(地山)



第10図 第151-9次調査 調査区位置図 (1:2,000)・調査坑配置図 (1:400)・断面図 (1:50)

に達し、根を大量に含む表土層との間に暗褐色壤土層もみられたが、調査地の東側に位置するB区では現況G.L.から0.4m強の表土直下で地山面が現れた。地山面までの土層は竹根の影響か、ほとんど表層土化した箇所もあり、詳細な土層断面の観察は不可能だった。

いずれの調査坑からも遺構・遺物はまったくみられなかったが、土壌入れ替への施工深度内では遺構検出面（地山）に達しない事が判明したため、これ以上の調査は行わなかった。（大川勝宏）

7 第151-10次調査（6AV10）

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字東加座2382-3

原因 飼料タンク設置

調査期間 平成18年12月18日～12月19日

調査面積 8㎡

調査概要

本調査は、史跡東部の町道沿いの現況畑地に、畜産業にかかる飼料タンクを設置するにあたり、その基礎部分の発掘調査を行ったものである。当該地は、平安時代前半を中心とする方格地割の中の最も東で、北から二つ目の方形区画の中心付近にあたる。周辺でも第37-13次調査・69次調査・89-2次調査で方格地割に方向を揃えた平安時代前期の掘立柱建物などが確認されている。

今回の調査では、調査面積も狭小であり、調査区の北端で東西方向の溝SD9643とその肩部に集中する小規模なピットを複数検出したのみである。ピット群の中で、掘立柱建物の柱穴と認定できるものはない。SD9643は幅0.9～1.0m、深さ0.3～0.4mの、断面形が逆台形になるもので、土師器片や須恵器片が出土している。詳細な時期決定できる根拠は欠くものの、方格地割が当エリアで敷行されていた平安時代前期までは遡る可能性がある。今回の調査区の町道をはさんだ東側で実施した第69次調査でも、SD9643を東に延長した位置に奈良時代後期とされるSD4613があり、これと一体のものである可能性もある。（大川勝宏）

8 第151-11次調査（6AO14）

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字木葉山4157

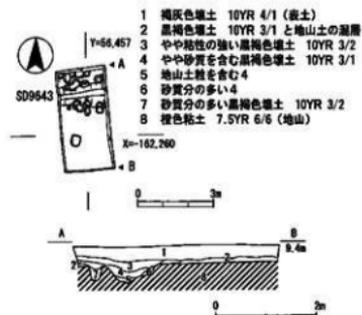
原因 宅地造成

調査期間 平成19年1月31日～2月7日

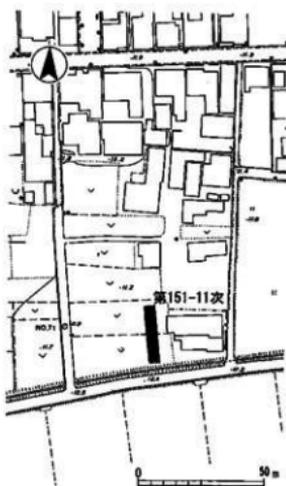
調査面積 92㎡

調査概要

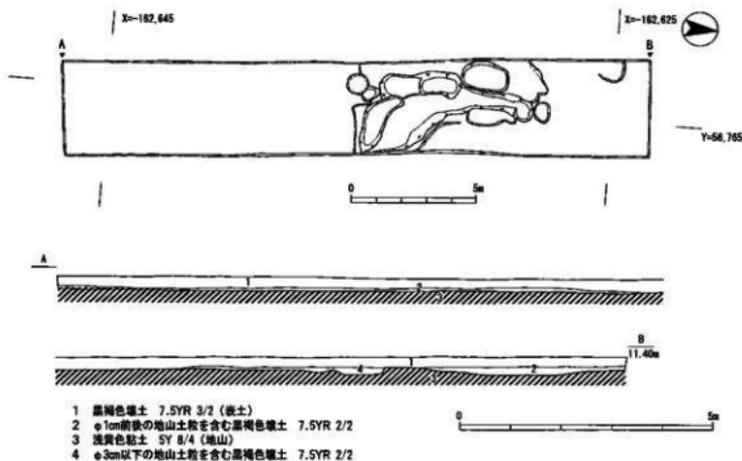
本調査は、史跡南端中央付近の第三種保存地区で、水田を埋め立てて宅地造成を行うのに先立って実施したものである。調査区は申請区内で調査の排土置き場を確保しながらのものになったため、幅4m、長さ23mで調査区を設定した。



第11図 第151-10次調査
調査区位置図（1：2,000）
遺構平面図（1：200）・断面図（1：100）



第12図 第151-11次調査 調査区位置図
（1：2,000）



第13図 第151-11次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

遺構検出面である浅黄色粘土の地層面までは浅く、おおむね耕作土直下の0.25~0.3mの深さでこの面に達する。この面の標高は約10.9mである。本調査区の西方約100mで実施した第96-5次調査では、方格地割の木葉山西区画に伴う八脚門とそれに取り付く柵列や大型の掘立柱建物が見つかっている。今回の調査においても方格地割の南端を形成する何らかの施設の確認が期待されたが、近世以降の擾乱などに伴う落ち込みがみられたのみで、斎宮関連の遺構はまったくなかった。出土遺物も近世以降の陶磁器類が若干出土したのみである。

(大川勝宏)

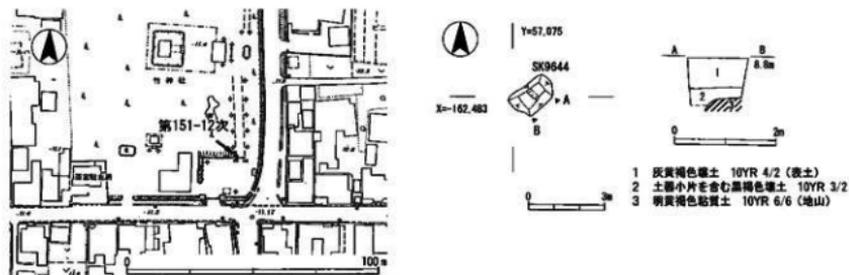
9 第151-12次調査 (6AR12)

調査場所 三重県多気郡明和町斎宮字牛養2757・2757-2

原因 ポール設置

調査期間 平成19年3月23日

調査面積 1.5㎡



第14図 第151-12次調査 調査区位置図 (1:2,000)・遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

調査概要

本調査は、史跡東部の参宮街道沿いにある竹神社境内において、氏子の奉納により祭礼の際に掲げるのぼり旗等のためのステンレス製ポール（高さ10m）を設置するにあたっての工事立会いを行い、工事掘削が一部遺構検出面に達した箇所について発掘調査に切り替えて記録を作製したものである。設置するポール2本のうち、東側のものは深さ1m程度まで掘削したものの遺構面や遺物は確認されず、西側のもう1本の側では深さ0.8mほどで遺構面と遺構とみられる落ち込み、土器類の出土をみた。遺構面が確認された標高は約8.0mである。

この調査坑は1.5m×1.0mの不整形で、この北東寄りでSK9644を検出した。遺構の保護のため、調査は施工深度以内としたため、遺構の肩部から最大0.2m弱の深さまでしか調査していない。この埋土や上層の包含層からはロクロ土師器杯や土師器片が出土し、平安時代末期（斎宮跡編年Ⅲ-3期）の遺構であるとみられる。

竹神社境内は、これまでの発掘調査の成果から方格地割が史跡東部に展開していた平安時代において、斎王の居所である「内院」であったと考えられているが、境内地内の調査事例は極めて少ない。今回の調査は「内院」推定地の地下の状況について、わずかながらも貴重なデータを得たと言える。（大川勝宏）

調査次数	遺構番号	遺構の種類	調査時遺構名	地区	時期	斎宮編年	遺構の性格・遺物・その他
151-3	SD9630	溝	溝	-	不明	-	土師器片
151-4	SH9631	竪穴住居	-	c3	奈良	I	
151-4	SH9632	竪穴住居	-	c3	奈良	I	
151-4	SH9633	竪穴住居	SK2	b4	奈良	I	土師器片
151-4	SH9634	竪穴住居	SK1	c2	奈良	I	土師器杯・壺・高杯
151-4	SD2505	溝	大溝上層	f5	鎌倉	-	「鎌倉大溝」土師器片・須恵器片
151-5	SX9635	方形周溝	方形周溝	-	不明	-	未掘
151-5	SD9636	溝	溝	-	不明	-	未掘
151-6	SK9637	土坑	SK1	-	室町	-	土師器鍋・羽釜・蓋
151-6	SE9638	井戸	-	-	不明	-	平安期か？
151-8	SK9639	土坑	土坑1	-	不明	-	未掘
151-8	SK9640	土坑	土坑2	-	不明	-	未掘
151-8	SD9641	溝	溝1	-	不明	-	未掘
151-8	SD9642	溝	溝2	-	不明	-	未掘
151-10	SD9643	溝	溝	-	平安前	Ⅱ	土師器片・須恵器壺片
151-12	SK9644	土坑	土坑	-	平安末	Ⅲ-3	土師器片・ロクロ土師器片

第2表 第151-3～6・8～12次調査検出遺構一覧

付篇 史跡現状変更等許可申請

平成18年度中の史跡現状変更等許可申請は、31件提出された。前年度申請も含め18年度中に発掘調査を行ったのは、14件であり、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が2件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが12件である。なお、本書に掲載している第151-8次調査は前年度申請分である。

31件の申請の内18件は、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては齋宮歴史博物館並びに明和町齋宮跡課職員の立会いのもとで実施している。

18年度の申請の内容は、一覧表（第3表）のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

（A）個人等による申請

個人等による申請は、住宅等の新築及び改築に伴うもので21件あった。10件については発掘調査が必要とされ、18年度は個人住宅等の建設に伴う浄化槽部分や基礎部分など8件（第151-3～6・9～12次調査）の調査を行い、2件を着工時期の関係で次年度の調査とした。

他の11件については、個人住宅の建設や除去で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は5件の提出があった。その内容は、道路側溝の改修が1件、下水道管の敷設関係が2件、排水路関係が2件ある。その内調査対象となったものは、下水道管敷設（第151-1、2、7次調査）である。そのほかは工事立会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

この申請は3件あり、昨年度から実施している史跡公園北野広場の整地工と史跡整備済みの園路等の改修工事である。

（D）発掘調査のための申請

この申請は2件（第149次・第150次調査）あり、三重県教育委員会が主体となり齋宮歴史博物館が実施している計画発掘調査で、1,150㎡が調査された。これらの内容については齋宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。

（中野敦夫）

	申請地	種別	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分
1	斎宮中西599-1、-2	A	個人	建物撤去	H18.4.21	H18.6.1	4棟	4
2	竹川字中垣内438-6外4筆	D	三重県教育委員会	発掘(計画)調査	H18.5.24	H18.6.29	650㎡	3 第149次調査
3	斎宮字東加座2442-2、2443-3	D	三重県教育委員会	発掘(計画)調査	H18.6.6	H18.6.29	500㎡	1 第150次調査
4	斎宮中西599-1外3筆	A	個人	住宅建築	H18.5.30	H18.6.29	124.9㎡	4 第155-3次調査
5	斎宮地内	B	明和町(上下水道課)	下水道管敷設	H18.5.31	H18.7.27	L=950m	2・3 第151-1・2・7次調査 第155-7次調査
6	斎宮字牛養99-2	A	個人	住宅建替	H18.6.7	H18.6.29	36.64㎡	4 第151-3次調査
7	斎宮字上園地内	C	(財)国史跡斎宮跡保存協会	道路舗装補修工事	H18.6.15	H18.6.28	46㎡	1
8	竹川字南畠234、233-4	A	個人	倉庫建築	H18.6.15	H18.7.27	49.8㎡	4
9	斎宮字種林3146	A	個人	住宅建築	H18.6.16	H18.7.27	72.70㎡	3 第151-4次調査
10	斎宮字東前沖2505-4	C	明和町(斎宮跡課)	環境整備	H18.6.27	H18.9.15	3,419㎡	4
11	斎宮字東加座2436-4 斎宮字東加座2434-2	B	明和町(上下水道課)	プレハブ等設置	H18.7.14	H18.7.27	2棟	2
12	斎宮字森殿2890-4	A	個人	住宅増築	H18.7.28	H18.9.5	9.38㎡	4
13	竹川字東畠344-2	A	個人	住宅建替	H18.7.31	H18.9.5	46.37㎡	4 第151-5次調査
14	竹川字南畠235外3筆	A	個人	住宅建築	H18.8.22	H18.9.15	156.50㎡	4 第151-6次調査
15	斎宮中蔵戸710-1外	B	竹川自治会	水路改修	H18.8.28	H18.9.28	L=200m	3
16	斎宮字殿山2740-1、-8	A	個人	仮設プレハブ建物設置	H18.9.12	H18.9.26	38.88㎡	4
17	斎宮字東加座2385-5、-3	A	個人	ブロック塀設置	H18.9.19	H18.10.27	L=13.5m	4
18	斎宮字牛養3399-3	A	個人	植栽除去	H18.10.12	H18.11.17	234㎡	3 第151-9次調査
19	斎宮字種林3144-2	A	個人	住宅撤去	H18.10.19	H18.11.9	1棟	4
20	斎宮字東加座2382-3	A	個人	飼料タンク設置	H18.10.25	H18.11.17	15㎡	2 第151-10次調査
21	斎宮字木葉山4157	A	個人	宅地造成	H18.11.10	H18.12.21	300㎡	3 第151-11次調査
22	斎宮字東前沖2949	A	個人	住宅撤去	H18.12.8	H19.1.11	1棟	4
23	斎宮字牛養3023	A	個人	住宅撤去	H18.12.25	H19.2.1	3棟	4 第151-12次調査
24	斎宮字牛葉地内	B	三重県(松阪建設事務所)	側溝改修	H19.1.10	H19.2.1	L=56m	3
25	斎宮字広畑3385-2	B	明和町教育委員会 (学校教育課)	埋設排水管改修	H19.1.31	H19.2.9	L=2m	4
26	斎宮字西前沖2650-1、-2	A	個人	ブロック塀設置	H19.2.5	H19.3.1	L=83m	3・4
27	斎宮字牛養330-2	A	個人	住宅建築	H18.2.5	H19.3.1	74.53㎡	4 第155-6次調査
28	斎宮字牛養2757.2757-2	A	個人	ポール設置	H19.2.19	H19.3.16	2本	4 第151-12次調査
29	竹川字古里566	C	明和町(斎宮跡課)	園路の改修	H19.2.20	H19.3.2	L=10.5m	3
30	竹川字古里575-1	A	個人	住宅建築	H19.2.16	H19.3.16	94.40㎡	3
31	斎宮字東前沖2487-5	A	個人	住宅改築	H19.3.12	H19.3.29	100.74㎡	4

第3表 平成18年度 現状変更等許可申請一覧表

写真図版



第151-3次調査 全景（西から）



第151-4次調査 北区全景（南から）

写真図版 2



第151-4次調査 北区南半部（西から）



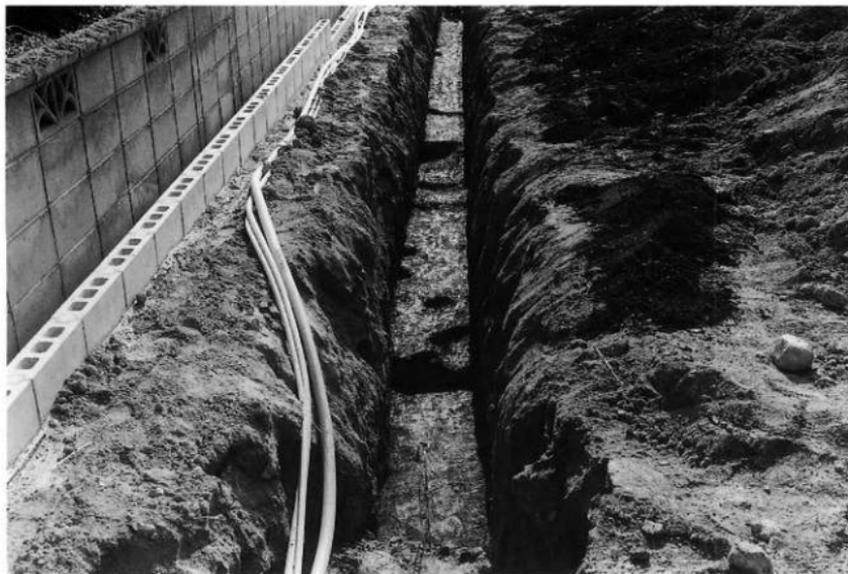
第151-4次調査 SH9632（北から）



第151-4次調査 南区全景（西から）



第151-4次調査 SD2505（西から）



第151-4次調査 排水管調査区（北から）



第151-6次調査 全景（北から）



第151-6次調査 S K 9637 (北から)



第151-6次調査 東部 (北から)

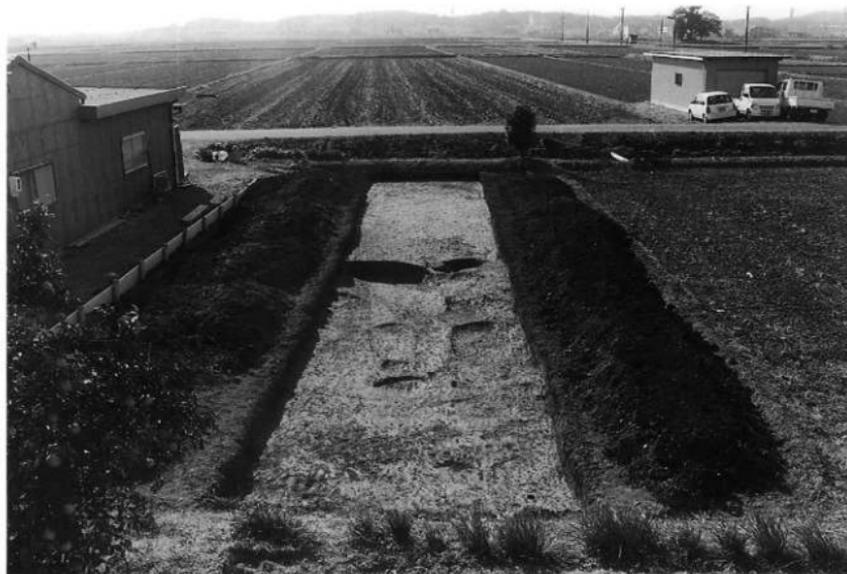
写真図版 6



第151-9次調査 Cグリッド



第151-10次調査 全景（西から）



第151-11次調査 全景（北から）



第151-12次調査 全景（北東から）

報告書抄録

ふりがな	しせきさいくあと へいせいじゅうはちねんどげんじょうへんこうきんきゅうはつくつちようさほうこく							
書名	史跡斎宮跡 平成18年度現状変更緊急発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	24							
編著者名	大川勝宏・泉雄二・松田珠美・中野敬夫							
編集機関	斎宮歴史博物館（調査研究課）・明和町（斎宮跡課）							
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945番地 TEL 0596 (52) 7126							
発行年月日	西暦 2008年 3月 25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
さいくあと 斎宮跡	たきごほらあわら 多気郡明和町 さいくお 斎宮・竹川	24442	210	34° 31' 55" ～ 34° 32' 30"	136° 36' 16" ～ 136° 37' 37"	20060401 ～ 20070331	全9件 合計335.2㎡	史跡現状変更に伴う緊急発掘調査（史跡斎宮跡第151次調査）
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
斎宮跡第151次	官衙・集落	奈良 平安 鎌倉 室町以降	竪穴住居 土坑 溝 鎌倉大溝	土師器 須恵器 ロクロ土師器 陶器				
要約	<p>第151-3・6次調査では、中世末から近代までの旧参宮街道に関わるとみられる遺構がみつかった。史跡北部の第151-4次調査では奈良時代の竪穴住居4棟が重複して見つかるとともに、「鎌倉大溝」の一部を確認した。第151-5次調査では斎宮に先立つ時代の方形周溝遺構を確認した。第151-8・11次調査では、明瞭な遺構確認はできなかったが、史跡南辺の遺構検出面の情報を得ることができた。第151-9次調査でも遺構は確認できなかったが、史跡南部の斎宮小学校周辺の地下の新たな情報を得た。第151-12次調査は、極めて狭小な調査区ではあったが、平安時代の斎宮「内院」と考えられている竹神社境内地内の地下の情報と出土遺物を得た。</p>							

史 跡 齋 宮 跡

平成18年度

現状変更緊急発掘調査報告

平成20(2008)年3月25日

編 集 齋宮歴史博物館
明 和 町
発 行 明 和 町
印 刷 光出版印刷株式会社
